

令和2年度 篠田学術振興基金助成研究

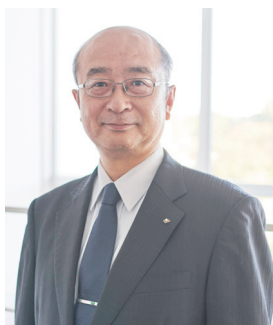
近現代日本における「皇室と福祉事業」に関する研究会 ニュースレター

巻頭言 コロナ禍でのスタート

新田 均 (皇學館大学 教授)

今年度、あらためて、篠田学術振興基金の助成を受けることができ、「恩賜金と福祉事業に関する基礎的研究」(令和2年度から令和4年度まで)をスタートすることが可能になりました。思えば、この研究会は、研究課題を変えながら、科研費などの支援も得て、平成25年以来、8年間継続して参りました。しかしながら、コロナウィルスの蔓延により、今年度の当初計画は大幅に変更せざるを得ませんでした。今回のニュースレターでは、当初の研究計画の概要と第1回の研究会の報告、そして、メンバーの自己紹介を載せさせていただきます。

まだまだ先行き不透明な状況ではありますが、このレターをきっかけとして、皆さんに改めて、本研究会の意義と目的を確認していただき、この状況下で何をどのように進めることができるのかを考えていただければ幸いです。



第11号 目次

篠田学術振興基金助成研究 「恩賜金と福祉事業に関する 基礎的研究」について	……1
令和2年度第1回研究会の報告	……2
研究会 会員自己紹介	……4
購入図書を紹介	……8
出張報告	……8
寄稿のお願い	……8

篠田学術振興基金助成研究 「恩賜金と福祉事業に関する基礎的研究」について

本研究は、学校法人皇學館が設ける学内研究助成を受けて進めるもので、以下にその内容を紹介しておきたい。

(1) 研究代表者・共同研究者代表

代表者：新田均

共同研究者代表：大井智香子・中野一茂

(2) 研究期間

令和2年(2020)年度～4年(2022)年度

(3) 研究申請を行った学術的背景と目的及び目標

本研究は、「神道福祉」にかかる研究領域の重要なテーマとして注目される、①皇室と福祉事業の関係性を明らかにする基礎研究と、②当該研究にかかる研究者コミュニティの形成・研究拠点構築を目指すもの

である。新田均を代表とする研究チームは、平成29年度～31年度の科学研究費助成を受けて「近代の災害救助支援と政府・皇室・宗教の役割に関する実証的研究」(研究代表者・新田均、基盤研究(c)：課題番号17K04278)を進めてきた。

科研費研究においては、「災害救助支援」という場面に焦点を当てているが、今回の研究の大きな枠組みは、明治維新以降、先の大戦終結までの戦前期を中心に、皇室・政府・宗教が、「福祉事業」の内容形成にどのような関わりを有し、その具体的な活動展開に如何なる役割を担ってきたのかを、組織や人物、事業内容に焦点を当て明らかにすることを目指すものである。

そのため、具体的には、(a) 皇室と福祉の関係性を「恩



科学研究費助成
(平成29年～31年度)
報告書 表紙

賜金」を通してその役割を明らかにすること、(b) 皇族やその周辺において福祉事業がなされてきた状況を人的関係などに着目し新たな研究展開を図ること、(c) 近代以降の宗教の福祉への役割を神道・神社状況の分析という観点から、仏教やキリスト教福祉との対比において捉え返しその研究枠や方向性を明示すること、(d) 国内外の研究者による研究コミュニティの場の形成をはかるとともに、収集資料の共有化や利活用の方策を確立する研究拠点形成を図ること、の4点を研究目的・実践としている。

以上のことを含め、研究の主目標は2点ある。

(1) は、これまでグループとして研究を進めてきた、「恩賜金」の下賜・配分のあり方を通して窺われる皇室の福祉事業の様相と実態を把握する上で重要な資料の調査・収集・分析及び「皇室福祉年表」の完成である。

(2) は、本研究に関心を寄せる国内外の研究者のプラットフォーム提供と拠点形成への準備である。

(1) に関し敷衍すると、研究グループとしては、明治・大正両期について「皇室福祉年表」(稿)の作成を進めてきたが、ここに昭和期(終戦迄)を繋げて行く計画を有しており、その完成のためには、宮内庁書陵部(宮内公文書館)所蔵の『恩賜録』の電子データ入手と記事内容の精査が必要となっており、この研究を進めたい。また、恩賜金の配分が実際にどのように行われていたのか、従前、岩手・宮城・福島各県における大規模自然災害時の場合にかかる行政文書調査と紹介に努めてきたが、さらにこうした資料の所在把握や実地調査を継続する必要があると考えている。

(2) に関しては、これまで、朝鮮総督府(明治43年9月～昭和20年9月)時代の恩賜金研究を進めている金仁鎬東義大学校教授グループとの研究交流を続けるとともに、さらに台湾総督府(明治28年6月～昭和24年6月)時代の研究状況を把握し、今後の研究プラットフォーム(土台)として役割を果たし、当該研究の拠点形成構築の可能性について検討を行うこととしている。こうした研究面での国際交流は、篠田学術振興基金の主旨に添うものである。

(4) 研究組織

本研究に関するメンバーについては、第一回研究会(令和2年9月7日)において、メンバーの追加と一部役割分担の変更が了解されており、その報告記事に掲載したのでここでは割愛する。

報告

令和2年度 第1回研究会の報告

櫻井 治男(皇學館大学 名誉教授)

これまで研究会は、年に2回、伊勢と東京(ないし京都)でメンバーが一堂に会する形で開催してきた。本年度もその予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により従来通りの開催が困難となり、Zoomを用いて開催するところとなった。その内容は以下の通りである。

(1) 日時

令和2(2020)年9月7日(月)17時～17時45分

(2) 出席者

新田均・大井智香子・中野一茂・宮城洋一郎・櫻井治男・田浦雅徳・尾崎剛志・山路克文・室田保夫・小平美香・冬月律・岩瀬真寿美・岡本和真・金田伊代・広中一成・長谷川怜・土谷長子

進行：櫻井治男

(3) 内容

1、代表者挨拶(新田均)

2、研究会幹事の紹介と挨拶

中野一茂(新任・代表幹事)・大井智香子(新任・代表幹事)・尾崎剛志(新任・会計&庶務)・櫻井治男(継続・調整&庶務)

*これまで研究会の庶務・会計については井上兼一准教授(皇學館大学教育学部)が担当してきたが、4月からは皇學館大学現代日本社会学部に新たに赴任した尾崎剛志助教が担当することとなり、その事について報告があり了承された。

3、メンバーの自己紹介

別添名簿(後掲)により参加者の自己紹介が行われ、また欠席者については、櫻井・新田より紹介がなされた。

4、「篠田学術振興基金による助成研究の概要と予算執行について

①櫻井より令和2年度における科研費申請が不採択となったが、篠田学術振興基金の助成は採択されており、3か年は篠田学術助成による研究を続

表：研究チームメンバー及び会員

名前	所属・職位	専門・研究分野	チーム区分	研究上の役割
新田 均	皇學館大学 現代日本社会学部教授	近代皇室制度論・近代神道史 ・政教関係論	AB	①全体の統括 ②近代における神道・国家・皇室の制度問題の分析
大井 智香子	皇學館大学 現代日本社会学部准教授	地域福祉論	AB	①研究推進の世話人、②近代以降における皇室と地域にかかる福祉事業実践の分析、③個別研究の連携・調整担当 ④研究者コミュニティの形成
中野 一茂	皇學館大学 現代日本社会学部准教授	ソーシャルワーク論	AB	①研究推進の世話人、②近代以降における皇室と福祉施設の関係性にかかる分析、③個別研究の連携・調整担当 ④研究者コミュニティの形成
宮城 洋一郎	種智院大学 人文学部教授	社会事業史・仏教社会福祉学	A	①研究推進の統括補助、②『恩賜録』の分析とデータベース化③地方行政文書・朝鮮総督府文書等の資料的研究
藤本 頼生	國學院大学 神道文化学部准教授	神道学・近代神道社会事業史	A	①近代の社会事業と皇室・神道の分析研究 ②『恩賜録』の分析とデータベース化
鶴沼 憲晴	皇學館大学 現代日本社会学部教授	近代福祉制度史	A	①近現代福祉制度の連続性と非連続性の比較研究
櫻井 治男	皇學館大学名誉教授 ／大学院・現代日本社会学部特別招聘教授	宗教社会学	AB	①研究推進の統括、②『恩賜録』の分析とデータベース化 ③地方行政文書・朝鮮総督府文書等の資料的研究 ④研究者コミュニティの形成
田浦 雅徳	皇學館大学 アドミッションオフィス教授	日本近代外交史	A	近代の皇室福祉事業の構成内容研究
遠藤 慶太	皇學館大学文学部教授	日本古代史	A	日本における「恩賜」制度の史的研究
板井 正斉	皇學館大学 文学部教授	宗教社会学・地域文化研究・福祉文化論 ・宗教と社会貢献研究	B	①研究者コミュニティの形成②近現代における神社・神職の福祉活動の連続性・非連続性にかかる分析
井上 兼一	皇學館大学 教育学部准教授	近代日本教育史	B	①研究者コミュニティの形成 ②近代の義務教育における皇室・福祉教育の分析
尾崎 剛志	皇學館大学 現代日本社会学部助教	障害者福祉	AB	①研究推進の世話人、②研究者コミュニティの形成
山路 克文	鈴鹿大学 子ども教育学部教授	福祉政策論	AB	戦前・戦後における福祉政策の連続性と非連続性
室田 保夫	京都ノートルダム女子大学 特任教授	近代日本社会福祉史	A	近代におけるキリスト教社会福祉事業と皇室にかかる研究
小平 美香	学習院大学非常勤講師/ 天祖神社宮司	神道学・近代女性皇族の慈善事業研究	A	近代の女性皇族と関係者による福祉事業形成の研究
冬月 律	モラロジー研究所 研究センター所員 ／麗澤大学非常勤講師	宗教社会学・社会調査	B	①研究者コミュニティの形成 ②韓国における「恩賜金」研究の分析、
金 仁鎬	東義大学校人文学部教授	近代韓国日本関係史	AB	①植民地期朝鮮における恩賜金の研究 ②研究者コミュニティの形成
岡本 和真	皇學館大学 大学院博士後期課程		AB	①資料調査補助、②データ整理作業等補助
金田 伊代	京都大学 大学院博士後期課程		AB	①資料調査補助、②データ整理作業等補助
広中 一成	愛知大学・三重大学等 非常勤講師	中国近現代史・日中戦争史	B	研究者コミュニティの形成
長谷川 怜	皇學館大学 文学部国史学科助教	日本近現代史・日中関係史・満洲経営・ 日露戦争・凶画像資料	B	研究者コミュニティの形成
土谷 長子	皇學館大学 教育学部准教授	幼児教育学・保育学	B	研究者コミュニティの形成
岩瀬 真寿美	同朋大学 社会福祉学部准教授	仏教的教育人間学・道德教育	B	研究者コミュニティの形成
川田 敬一	金沢工業大学教授	近代日本法制史・皇室制度史 ・憲法		研究協力者
瓜田 理子	皇學館大学 現代日本社会学部准教授	民族宗教音楽・祭祀と伝統音楽・欧米 における神道理解・レジリエンス		研究会参加者
池田 久代	元皇學館大学教授			研究会参加者
成 江 紘	天道教ジョンハク大学院・ 教授		金教授 研究 チーム	研究協力者
河 堯	東義大学校・兼任教授		同上	研究協力者
李 俊英	高麗大学校 亜細亜問題 研究所・研究教授		同上	研究協力者
鮮于 性惠	東義大学校 歴史人文教 養学部・講義全担教授		同上	研究協力者
金 イェスル	慶南大学校 歴史学科・ 講師		同上	研究協力者

けること、また令和3年度における科研費申請の準備中であることが報告された。

②研究内容は大きく2点あり、メンバーがそれぞれA・Bのチームに属し研究の推進を図ることとする。また両方のチームへ属することもメンバーの希望や今後の研究展開に応じて柔軟にするとの方針が了解され、相談の結果以下の通りとなった。

〔テーマ〕皇室と福祉事業に関する基礎研究

*チームA

（研究内容）「恩賜金の下賜・配分にみる福祉事業の分析と皇室福祉年表の作成、神社・神道関係者の福祉活動検証等」

（メンバー）新田・中野・大井・尾崎・鶴沼・宮城・櫻井・田浦・遠藤・藤本・小平・室田・山路・金・岡本・金田

*チームB

（研究内容）「国際的な研究者コミュニティ形成と研究拠点構築のための実践的研究

（メンバー）新田・大井・中野・尾崎・櫻井・井上・板井・山路・冬月・岩瀬・金・広中・長谷川・土谷・岡本・金田

③当初の研究計画と予算関係について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、当初の研究計画と予算案については変更をせざるを得ない状況である。特に国内外への旅費は国内資料調査費（チームAが中心）を除く外は執行ができないことと思われる。そのため、打ち合わせ会議や研究会は当面Web上で行うこととする。これまでニューズレターはメンバーが担当して発行してきたが、編集・発行など外部の協力を得ることへシフトする。図書購入費を増額しメンバーより購入図書の希望を募る。Web会議を積極的に行うための関連機器などの導入を図る。申請時の予算計画では対応できないので、篠田学術振興基金運営委員会へ実情を伝え、予算の編成変えの可能性について問い合わせを行う。

5、ニューズレターの刊行等方式について（報告）

伊勢市内の「森本オフィス」へニューズレターの編集発行の委託を予定していることについて中野代表幹事より説明。併せてこれまで作成に多大な協力を得た金田伊代さんへ新田代表より感謝の言葉が述べられた。

6、その他

新田代表より2件報告がなされた。

①「皇室と福祉」にかかる研究成果を教育へ還元

する方向性として現代日本社会学部のカリキュラムへの反映を検討中である。

②台湾関係における研究展開に関しては、令和3年度に現代日本社会学部の開設科目「日本外交論」（秋学期）担当の村上正俊氏が台湾事情に詳しいので何らかの役割を担ってもらうこともあろう。

以上、本年度第一回の研究会では、研究報告などを行う時間がなく、篠田学術振興基金による助成研究の進め方などが話し合いの中心となった。コロナ感染症の収束が見えないところではあるが、今後はWebを活用して研究交流の広がりを図って行きたい。

研究会会員

自己紹介【1】 ※掲載は50音順

掲載内容 ■氏名 ■所属
■自身の研究テーマ／研究における関心

井上兼一（いのうえ けんいち）

■所属：皇學館大学教育学部 准教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

大きな研究テーマは、1930～1940年代の学制改革の再検討です。特に初等教育に着目して、その実態を明らかにしたいと思い、研究に取り組んでいます。この当時、明治期から続いてきた学校教育が、現実の社会や子どもの生活から乖離していたと考えられます。子どもを取り巻く諸問題を改善するために制度改革がなされました。尋常小学校から国民学校への変革について検証しています。近年では、三重県教育史にかかる資料の収集と整理を行っています。被占領下に発足した三重県教育委員会に焦点を当て、学校整備の実際や民主主義教育の普及などについて探究しています。

本研究会に関しては、戦前期の学校において、社会事業に関する内容がどのように教えられていたのか興味を持っています。以前に、光明皇后の教材を取り上げて、その特徴についてまとめたことがあります。機会があれば、赤十字活動に尽力された昭憲皇太后を描いた教材や教授資料について検討したいところです。

岩瀬真寿美 (いわせ ますみ)

■所属：同朋大学社会福祉学部 准教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

仏教的教育人間学と道德教育が主な研究テーマです。主な研究内容として、「道德教育における「崇高なものとの関わり」再考—鈴木大拙の「日本的靈性」概念を手がかりに—」「仏教的教育人間学から見る道德教育論議の可能性—畏敬の念に着目して—」「大乘仏教における「自利利他」の道德的価値」「仏教における悪の捉え方—善知識としての提婆達多に着目して—」「大乘仏教の人間観における苦と覚の関連性」「『華嚴經』における自然観—あらゆるものから学びあらゆるものを尊重する心に関する—考察—」「仏教における如来蔵思想の道德的意義—『法華經』の譬喩を使う道德授業の可能性—」「十牛図」の「覚」にみる自己形成観の意義—「覚」の探求・認識・はたらきの完結性についての考察—」などがあります。仏教宗派を超えた共通性や宗教的観念に超時間的に通底する道德理念の現代的意義を考察することが主な関心です。仏教福祉や福祉教育に関心があります。

遠藤慶太 (えんどう けいた)

■所属：皇学館大学文学部国史学科 教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

日本古代史を勉強してきました。とくに『日本書紀』をはじめとした歴史書の編纂や受容、木簡や正倉院文書といった一次史料と編纂物の関係にも関心を持っています。

岡本和真 (おかもと かずま)

■所属：皇学館大学大学院

文学研究科博士後期課程 在学中

■自身の研究テーマ／研究における関心

近世期朝廷の儀式再興

近世期、特に光格天皇の御代に再興された朝廷の儀式をテーマとして、再興されるまでの幕府との政治的な交渉、思想的な背景、再興に対する同時代の評価について研究しています。最近では実際に儀式の復興に携わっていた階層の人物、非蔵人や洛中の神職、有職故実家等の交際関係と研究手法や復興に対しての姿勢について調査を行っています。とりわけ、国学等の復古的な学問と必ずしもリンクしない形式で再興が行われていたと考えており、その実態を解明し、そもそもなぜ朝廷の儀式は再興されなければならなかったのかという問題について明らかにしたいと考えています。

当研究会では主に宮内公文書館所蔵『恩賜録』の撮影と目次作成を担当しておりました。現在は明治期皇室の福祉について、江戸時代からの思想的な連続性がどの程度認められるのかという点について関心を持っています。

尾崎剛志 (おざき たけし)

■皇学館大学現代日本社会学部 助教

■自身の研究テーマ／研究における関心

これまでは障害のある市民の就労支援や地域生活支援をテーマにしていました。今回、この研究会に関わらせていただくことになり、神社と障害のある市民・住民との関わりや、神社が地域の社会福祉とどのような関係を構築してきたのかを研究テーマに取り入れていきたいと考えております。仏教やキリスト教との関わりはテキストには出て来ますが、神社や神道との関わりはほとんど見られないのが現状です。神社や神道が福祉分野において果たしてきた役割の一端が明らかになればと考えております。宜しく願い致します。

小平美香 (おだいら みか)

■学習院大学・学習院女子大学非常勤講師、

天祖神社宮司

■自身の研究テーマ／研究における関心

専門は日本思想史。古代の女性祭祀や神職のありかたへの問いから研究を始め、現在は近代の国民教化、とりわけ国学者による女性の教化、教育について関心をもっています。「皇室と福祉研究会」での研究テーマは、皇后の慈善活動が、女官をはじめ近代草創期の女子教育を受けた女性たちの福祉活動にどのように影響を与えたのか、当時のメディアや史料から読み解いていきたいと考えています。また神職としては神社を拠点に、東京都神社庁研修所講師として教学・教化に関わる問題、女子神職、現代における神社の役割（福祉活動も含め）や今後の神社のありかたについて関心をもちつつ奉仕しています。

金田伊代 (かねだ いよ)

■京都大学大学院

人間・環境学研究科博士後期課程

■自身の研究テーマ／研究における関心

わが国は、世界でも類をみない多死社会を迎えており、高齢者、死亡者数の増加、医療費や介護負担の増大が社会問題になっています。また、価値観の多様化、家族形態の変化に伴い葬儀や埋葬法が多様化し、人生

の終わりをどこでどのように迎えるか、遺族にどのように寄り添うかといった死にまつわる関心が高まっています。わが国には道教や儒教、仏教が伝来する以前からある、神道的と言われる自然崇拜や祖先祭祀といった固有の宗教観、死生観、他界観があり、それに即した形での日本的ターミナルケア（看取り）が模索されています。

神道がターミナルケアにどのように関わることができなのか。また、神道が病や障害を持った人にどのようなことをしてきて、何ができるのかについて研究しています。

櫻井治男（さくらい はるお）

■皇學館大学 名誉教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

「皇室と福祉」研究に関しこれまで共同研究の企画立案、科研・篠田学術振興基金の申請業務、研究会の運営などに当たってきました。現在は、本テーマに直接かかわる領域や関係テーマの発掘、さらに研究者交流の推進支援に努めています。

私の専門分野は宗教社会学ですが、研究対象に神社と地域コミュニティの関係論があり、特に明治末期に政府主導で行われた「神社合祀」が地域住民に与えた影響の実態解明を行ってきました。神社合祀については、かつて南方熊楠が柳田國男等へ協力を呼びかけ反対運動を展開したことで知られています。

皇學館大学の社会福祉学部（現代日本社会学部に改組）に勤務した時は、「神道と福祉」という新科目の担当でした。学部では「すべての人々との共生に基づく協調と連帯による共同体づくりと、あらゆる存在に生命を感受するという神道のこころを継承し、この文化のもつ寛容性と主体性を自覚して現代的に発展させる」との教育目標を掲げており、この関わりで地域コミュニティと福祉の問題を扱ってきました。

土谷 長子（つちや ひさこ）

■皇學館大学教育学部教育学科 准教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

専門は保育学・幼児教育学です。とくに子どもたちの発達と保育内容について研究をしています。主体的な活動が子どもの学びへと繋がっていくことを踏まえ、子どもたち自身がしたい、やりたいと思える環境をいかに作るかが問われています。子どもたちが生き生きと生活するための保育について、様々な観点からの視点を駆使し、子どもの育ちをサポートしたいと考えています。

新田均（にった ひとし）

■皇學館大学現代日本社会学部 教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

「皇室と福祉」研究会の立ち上げは平成25年1月でした。その目的は皇室を中心として、民間と宗教をも視野に入れて近代の福祉事業の実態を明らかにすることにあります。この課題のルーツは、私が所属する皇學館大学現代日本社会学部の前身である社会福祉学部が掲げた「神道福祉」という研究分野にあります。本研究会は社会福祉学部が現代日本社会学部に発展したことを受けて、あらためて皇學館大学の建学の精神を踏まえ、皇室を機軸として、神道と福祉に加えて他の宗教や民間の活動も視野に入れた上で、近代の社会事業の展開を実証的に研究するという方向で活動の続け、近年では海外の研究者とも連携するまでになりました。研究代表者としての私の目標は、この研究会の成果が、「皇室福祉」という専門科目として、現代日本社会学部のカリキュラムの中に取り入れられることです。

私の専門分野は近代日本の政教関係です。この分野で、かつては「国家神道」という用語が使用されることが多く、近代日本を戦争へと導き、諸思想を弾圧した元凶が天皇や神道であったとする理解が支配的でした。しかしながら、これの見方については、平成年代に多くの批判的実証研究の積み重ねがあり、私もその一人で、それは「幻想」に過ぎないということを様々な実例をあげて論じてきました。その甲斐あってか、前記のような見解に立つ若手研究者はほとんどいなくなりました。

この政教関係への関心から発展して、皇位継承問題や神道の儀礼に不可欠な日本産の大麻についての誤解や勘違いを検討し、正していくということも、私の研究課題に含まれるようになりました。さらに、新たな展開として、皇室、神道、諸宗教と、福祉、社会事業との近代における関係が研究関心に加わり、この研究会へと繋がりました。

広中一成（ひろなか いっせい）

■三重大学 愛知大学など 非常勤講師

■自身の研究テーマ／研究における関心

研究テーマは中国近現代史、特に日中戦争に関する問題に関心があります。

大学院のときから取り組んでいるテーマのひとつは、日中戦争期の日本軍による中国占領統治の実態について、とりわけ、日本軍が現地に成立させた対日協力政

権（傀儡政権）にまつわる諸問題についてです。そのなかでも、私は河北省にできた冀東防共自治政府と中華民国臨時政府というふたつの政権に着目し、統治の様相や、日中両国との関係について検討しました。そして、その成果を博士論文や一般書にまとめて発表しました。

以上の研究のほか、最近では戦前上海にあった東亜同文書院大学について、大学や学生が日中戦争にどのように向き合ったのかということにも関心を向けています。日中提携の橋渡し役を果たそうとした彼らが、いかなる思いで中国との戦争に協力せざるを得なくなったか。私たちが見落としがちな日中両国のはざまで生きた彼らの実像を明らかにすることも日中戦争研究の一端であると考えます。

冬月 律（ふゆつき りつ）

■（公財）モラロジー研究所道德科学研究センター
主任研究員

■自身の研究テーマ／研究における関心

主な研究テーマは、戦後日本の社会変動と宗教に関する研究、過疎地域の宗教（主に社寺に対する民衆の信仰）の変容に関する研究、人口減少社会における不活動神社に関する研究、伝統宗教の継承（次世代教化）に関する研究、中国少数民族（主にハニ族）の生活様式と信仰形態に関する研究、道德教育に関する研究など。「皇室と福祉研究会」においては近代日本による植民地社会事業研究、特に韓国における社会事業は皇室からの恩賜金に依拠して展開していったことに関心があります。その点は日本の事情とはかなり性格が異なるために、比較研究も可能と考えており、実際に朝鮮総督府時代の韓国における恩賜金研究に取り組んでいる韓国の研究者との共同研究も進めています。

藤本頼生（ふじもと よりお）

■國學院大學神道文化学部 准教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

近代神道史、宗教社会学、神道教化論、都市社会と神社、神道と福祉、政教問題を含む日本の宗教行政史、神社関係法規など。

研究を始めた当初は、明治期に行われた神社整理施策について関心を持ち研究を進めてきましたが、その後、神社神道と社会事業、社会政策、福祉活動との関わりについて研究を進め、とくに近代において神社・神職を所管し、神社に関する行政施策を策定する神社局や神祇院に在籍する内務官僚の研究を行ってきました。

た。近年は、科研を含む学内外の研究グループに複数参加しているため、特定の分野、時代区分に捉われることなく、近代の神社にかかる諸制度を踏まえた上で、現代社会における神社と神職の役割や宗教法人制度、わが国の政教関係や靖國神社の問題、皇室制度、大学と神職養成制度等についても研究を進めています。とくに最近では、川崎市を対象地域とした地域神社とそれを支える人々との関係について、もっとも強く関心を持っています。

宮城洋一郎（みやぎ よういちろう）

■種智院大学人文学部 教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

「明治期の災害と恩賜金」をテーマに研究会発足時から取り組んできました。ここ最近では、明治38年（1905）東北地方大凶作の史料調査を進め、東北三県（宮城、岩手、福島）の恩賜金配付を分析しました。現在は、そのまとめとしてこれまで検討した三県の恩賜金配付に関する規程、「交付式」の実状、恩賜金がもたらした成果などについて比較して、それぞれの県ごとの実状との関連などの考察を進めています。また、福島県庁文書「郡報市長報告書類」（明治39年）の詳細な検討も予定しています。この簿冊は恩賜金や義捐金が被災地にどのように配付され、被災住民にどう受け止められたか等の報告で、その実態解明に大きく寄与する史料と考えています。しかし、コロナ禍の影響で史料の調査や現地踏査がままならないのが残念です。

山路克文（やまじ かつふみ）

■鈴鹿大学こども教育学部 教授

■自身の研究テーマ／研究における関心

専門等関心領域

1) 社会福祉の近現代史研究

ーいわゆる「連続・非連続」の視点からみたわが国の社会保障・社会福祉ー

2) 医療・福祉政策の動向分析ーとくに「地域包括ケアシステム」の制度論的分析ー

3) ケアマネジャー等のスキルアップ研修
(コロナ禍により活動休止)

自己紹介

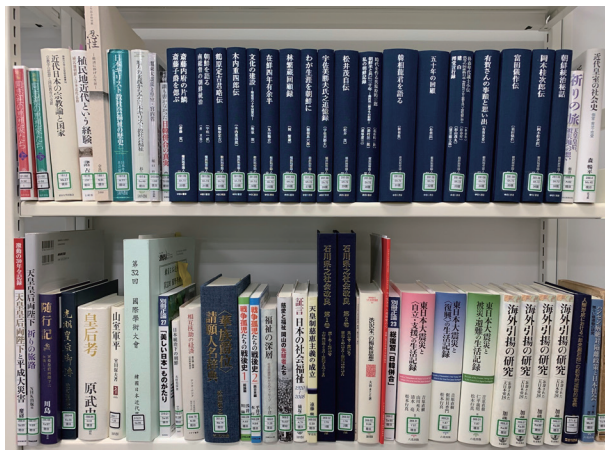
掲載内容 ■氏名 ■所属

■自身の研究テーマ／研究における関心

※未掲載の会員自己紹介は、次号以降に続きます。

報告 購入図書リスト

著者	書名	出版社
浅井春夫	戦争孤児たちの戦後史〈1〉総論編・〈2〉西日本編	吉川弘文館
森暢平	近代皇室の社会史～側室・育児・恋愛～	吉川弘文館
吉原直樹	東日本大震災と〈自立・支援〉の生活記録 他2冊	吉川弘文館
永島広紀	植民地帝国人物叢書朝鮮編（1～17・19巻）	ゆまに書房
	石川県之社会改良全2巻・別冊1 復刻版	不二出版
加藤聖文	海外引揚の研究～忘却された「大日本帝国」	岩波書店
宗教法人 光明宗法華寺	光明皇后御傳 改訂増補版	吉川弘文館



報告 出張報告

令和2年度（令和2年4月～令和3年2月）

日程	令和2年11月10日～12日
場所	宮内庁書陵部宮内公文書館 (東京都千代田区)
出張者	岡本和真
内容	『恩賜録』（簿冊1巻2巻が中心） の閲覧・撮影



宮内庁 書陵部宮内公文書館（画像出典：宮内庁ホームページ）

寄稿をお待ちしております

ニュースレター発行にあたり、研究会会員の皆様には「自己紹介」「活動報告」「会員業績」のご寄稿をお願いします。不定期発行ではございますが、寄稿のご予定は随時受け付けておりますので、メールにてご連絡ください。お待ちしております。

その他お知らせなど

今号よりニュースレター制作を森本オフィス（編集デザイン）が担当いたします。よろしくお願いいたします。（森本かおり）